講義名	統計調査法					授業形態	
担当教員	脇　穂積	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ４時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング	

主題と概要

現代社会では、あらゆるところで数量データが多用されている。
数量データは、現状の把握や将来の予測にはなくてはならないものである。
また企業や組織のなかで問題提起や意思決定をする場合、データに基づいた客観性が求められる。
データの中から必要な情報を正しく読み取って理解し、新しい知識を創造するためには、データの収集と分析、思考のための技法を身につけなければならない。
そこで、どのような統計調査があり、どのように利用されているかを種々の統計調査を通して理解する。
つぎに調査によるデータ収集の具体的な技法を学び、自らの問題意識に基づいた研究計画の立案からデータの収集と分析、結論の導出、発表に至るプロセスを学ぶ。
本授業では、統計調査に使える資料の探し方やデータのアーカイブを紹介し、調査の基本について学習する。
それらのデータを使用し、各自の問題意識を調査データと結びつけ、仮説から結果の導出までを体験する。

到達目標

・統計データの種類、活用方法を理解できるようになる。
・問題の発見、仮説の設定、問題定義に至るリサーチプロセスを理解できるようになる。
・調査を計画、実施、分析、報告書作成に至る一連の過程を理解できるようになる。

提出課題

中間課題として、調査企画書（アンケート用紙作成を含む）の提出。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各課題に対して、個別にコメントを記述し回答する。

評価の基準

平常点、提出物(論文・レポートなど)、試験、復習課題、中間課題、期末試験の結果から総合的に評価する。
配分は、平常点：10%、提出物：20%、試験：70%。

履修にあたっての注意・助言他

講義は双方向型の質疑応答形式で進めていきます。積極的な発言を期待します。
講義中の私語、不必要な携帯電話、メール等は厳禁です。このような行為がある場合、「講義妨害」と見做し、他の
履修者の権利を守るため退室してもらうことがありますので注意してください。

教科書

.入門・社会調査法（第3版）: 2ステップで基礎から学ぶ.	轟 亮, 杉野 勇 (編集)	法律文化社	2500	978-4589038173
.創造の方法学.	高根正昭	講談社現代新書	840	978-4061455535

参考図書

その他

授業中にPPTを提示する

授業計画

1 統計調査法とは
2 仮説の立て方
3 調査の準備(調査設計)
4 調査の準備(項目)
5 統計データの利用(アーカイブ分析1)
6 統計データの利用(アーカイブ分析2)
7 標本調査の方法: サンプリング
8 標本調査の方法: 質問紙
9 データの回収とクリーニング
10 データの種類
11 分析の種類(記述統計)
12 分析の種類(推測統計)
13 結果のまとめ方(仮説の検証)
14 結果のまとめ方(論議)
15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は２単位ですが、２単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。
予習・復習等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。
具体的には、授業前に各回の授業内容について文献やインターネットを検索する等情報収集をしておいてください（２時間）、また授業後に各回の授業内容を復習し、要点をまとめること。疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（２時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

統計調査の方法論を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義内での意見応答を、学内導入済みのRESPONシステムを用いて可視化し、双方向授業実施を行う。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。企業における調査業務を事業として行っており、実務に関連するノウハウについても提供する。

備考